



簡単な図書の整理の仕方 (3)

五、分類された本はどう並べるか

同じ分類番号の本は、どんな順序に並べたらよいか。これには、本のはいつてきた順、(受け入れ順) 著者の順、本の発行年代順等いろいろあります。

どの方法にも長所や、短所があつて、どれが絶対によいというきめ手はなく、図書館では利用者の便利を考えて、その中のどれかを採用しています。県立図書館では「著者の順」を採用しています。これは同一人の著作がそこに集まるので、合理的で、便利です。ただこのためには目録カードを使わないとできないので、ここに技術上の問題があるわけですから、公民館等でとてもそこまで手が回りかねる場合はカードを使わないでもすむ、「受け入れ順」の方法をとればよいと思います。すでに著者名の頭文字順にし、書架目録をつくつてるところでは、変える必要はありません。

〈受け入れ順図書番号についての注意を要する点〉

例えばつぎのようになります。

六四―一 日野真佐志 やさしい犬の

飼いや方

六四―二 南部 吉毅 犬のしつけと

飼いや方

六四―三 岩元 照男 ロバ先生の犬

の飼いや方と病気

どの本も一冊ずつのときはこれでよいのですが、「日本百科大事典」のように、全体で十四冊からなつてゐる場合、これらをばらばらにしては不便です。何冊あつても全部〇〇―二とし、第一巻は〇〇―二―一、第二巻は〇〇―二―二、…第一四巻は〇〇―二―一四とします。最後の番号を巻冊番号といいます。こうして、同じ図書番号の本は、巻や冊の番号順に並ぶことになり、すなわち受け入れ順の番号ですと、同一分類番号の中は、一、二、三の順に書いてゆけますから、ルーブリーフ式でまにあいます。

〈書架目録〉

このように本を書架に並べる順に記録したものを「書架目録」といいます。

左の図は書架目録の記入例です。上図は六四家畜(禽)飼育、下図は一部十四冊の百科事典です。下図の方は「日

64 家畜(禽)の飼いや方 (1)					
図書番号	著者名	書名	冊数	登録番号	備考
1	日野真佐志	やさしい犬の飼いや方	1	11	
2	南部吉毅	犬のしつけと飼いや方	1	22	
3	岩元照男	犬の飼いや方と病気	1	33	

00-2 日本百科大事典					
図書番号(巻冊番号)	著者名	書名	冊数	登録番号	備考
1		第1巻 アーウ	1	8	
2					
3		第3巻 サ	1	18	
4		第4巻 シース	1	24	
5					

本百科事典」だけについてのものですから、更に別紙ということになります。

〈ラベル〉

このようにして、分類番号、図書記号、巻冊番号がきまれば、ラベルに書いて、図書にはりつけます。

64	1
64	2
00	2
	1
00	2
	3

〈書架目録の用途〉

分類別に書いたルーブリーフを番号順にとじたものを書架目録といい、書架に並んでゐる図書の有無を調査点検するときを使うのが第一の目的で、新しく本を買うとき、また、入つてきた本を分類するときの参考、分類別の冊数調べ等、用途は幅広く、年度の購入冊数、価格等のわかる図書原簿と表裏をなすもので、両方とも欠くことができないことがおわかりと思います。

六、むすび

簡単な図書の整理の仕方を三回にわたつて述べましたが、もちろんじゅうぶんではありません。分類法ばかりにこだわらなく、一冊の本の内容もまた千差万別です。しかしありふれた本は十冊のうち五〜六冊はだれが分類しても一致するはずですから、心配はいりません。今後図書館でもこうした講習会を開いて行きたいと考えていますので、ぜひあなたの館の図書を少ないうちから整理して住民の利用を促進していただきたいものです。